Ginkyo

www.kumamoto-hsu.ac.jp

銀杏学園通信 ぎんきょう

47
2023 冬
Take Free

SPECIAL FEATURE 特集

学長と在学生の対談
学長室訪問

CONTENTS

2~5 特集・学長と在学生の対談 「学長室訪問」
6~7 News & Topics
8~9 実習体験レポート、研究ノート
10 OB・OG就職活動ルポ
11 研究室紹介
12 コラム・基本理念・教育目標・熊保大夢基金

特集
GINKYO SPECIAL FEATURE

学長と在学生の対談

学長室訪問

「大学ってどんなところ?」「熊本保健科学大学の魅力って?」―。本学のことを知り尽くす4年生5人が学長室を訪問し、さまざまな意見を交換しました。(構成・ぎんきょう編集班)

大学は「人生の設計図」を描く場所

学長:皆さんはどんな気持ちで大学に入ってきたのでしょうか。僕は入学式の時、いつも「大学とは人生の設計図を描く場所だ」と言っています。覚えていますか。皆さんは看護師や臨床検査技師、リハビリのセラピストになりたいと思って入ってきている。でも、入学の目的はそれだけじゃないですよね。大学や実習先、アルバイト先などでいろんな経験をし、いろんな人と接して、自分自身が将来どんな社会人になりたいのかといったふうに自覚していくんだと思うんです。それが人生の設計図を描くということです。皆さん4年生ですから、もう描けているんじゃないですか。

大塚:入学当初は、臨床検査技師として病院で働くといったこと以外の選択肢もあると思っていたので、検査センターなど病院以外の職場も視野に入れていました。でも、病院実習を経験し、患者様と身近に接して仕事できることに魅力を感じるようになり、病院への就職を希望しました。

嶋村:1、2年の頃までは看護師になろうと思っていたのですが、保健師についていろいろと調べるうちに、私は保健師を目指したほうがいいのではないかと思うようになりました。就職も保健師として内定をいただきました。保健師の魅力は、予防医療に携われるということです。入学当初の看護師になるという人生設計とは違っていますが、保健師は家族、集団、地域、組織と幅広い範囲で、健康な人たちも対象にしていて、やりがいのある仕事を選んだと思っていますし、楽しみです。

山内:自分は野球をしていた中学時代からけがをしがちで、病院にお世話になる中で理学療法士(PT)という仕事を知

訪問者

大塚 瑞希 さん（医学検査学科 4年/第二高校出身）
嶋村 優里 さん（看護学科 4年/玉名高校出身）
山内 佑介 さん（リハビリテーション学科 理学療法学専攻 4年/福岡·香住丘高校出身）
山崎 友哉 さん（リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻 4年/熊本学園大付属高校出身）
丸山 愉貴 さん（リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻 4年/天草高校出身）

りました。当初は、けがをした人に対するリハビリといった印象が強かったのですが、実習で脳血管や心臓リハといった分野を経験し、どんな道に進むか今は決めあぐねているところです。ただ、けがで苦労した経験から中学生アスリートを支援したいという思いは変わっていませんから、病院に就職した後も、勉強していこうと思っています。大学に来てよかったと思うのは、熱い気持ちを持った同級生たちと会って人生観が変わったところでしょうか。

山崎：もともと子どもに関わる仕事がしたくて、幼稚園教諭を目指していたんです。ところが、たまたま高校の部活（弓道部）の先輩が生活機能療法学専攻に進学し、その先輩から作業療法士（OT）の仕事内容などを聞くうちに興味がわき、オープンキャンパスで意を強くして本学への進学を決めました。自分は子どもといったら健常者のことしか考えていませんでしたが、障害を持った子どもの支援に関わるのもいいなと思うようになり、そうした子どもたちにかかわるボランティアもやってきました。さらに、さまざまな実習を通じ、今は高齢者の方に対する経験も積みたいと思っています。4年生になってからなんですが、小児から老齢者へも目が向くようになったのは、大きな転機だったかなと思っています。

丸山：保育士を目指していたのですが、高校の時にインターンシップで行った保育園で、言葉の発達障害を持つ子どもたちがどこに行ったらいいのかわからないという現状を知り、以前から知っていた言語聴覚士（ST）の道を選びました。入学後、発達障害に脳がかかわっていることを学び、脳のことを知るにはまず成人の領域でしっかり学ぶことが必要だと思うようになりました。しっかり、脳のことを学んだ後に、子どもの領域へと行った方がいいんじゃないかと。あと、高次脳機能障害にすごく興味があって、それに関わりたいと思うようにもなっています。

大変だったコロナ禍の中での大学生活

学長：皆さんが2年になった新学期から、新型コロナがはやり出して、授業が全部遠隔になりました。いまでこそmanabaを導入し、動画配信などができるようになりましたが、当初は遠隔授業の体制ができていなくて。あの頃は、大学もすごく苦労しました。いろいろと勉強会を開いたり、他大学のやり方などを調べたりしてどのシステムが使いやすいとかいろいろ調べたんです。皆さんはどうでしたか。

嶋村：一番苦労したのは実習かなと思います。私は運が良くて、3年次の4月から11月までの実習は全部行けたんですけど、先輩たちは本当に行けなかった時だったので、就活も大変だったとお聞きしています。私たちの学年にも行けなかった人たちが多くて。やっぱり臨地実習を経験できないっていうのは、社会に出るときの不安材料になってしまうんじゃないかなと思います。

山内：僕は一人暮らしでよかったなと思います。実家に帰ったら気を遣うし、家族にも気を遣わせるじゃないですか。ただ、人とコミュニケーションを取れないのは結構苦痛だったかなという感じ。会長を務めた学友会活動も思うようにできませんでしたし。ただ、かわいそうなのは今の3年生ですね。コロナ禍の中で一人暮らしを始めた人たちは誰も知り合いがいない中で大学に入ってきて、部屋に監禁されたみたいな状態でしたから。

丸山：遠隔授業が始まってすぐ、PDFとかパワーポイントが先生方から送られてきて、それをダウンロードして授業を受けるという形でした。コロナが流行し始めた頃は自宅（上天草市）から通っていたんですが、ネット環境が悪くて、ファイルひとつダウンロードするのに8時間とかかることもありました。これじゃ授業を受けられないと思って、2年次の9月ごろに熊本市に引っ越して、一人暮らしを始めました。

大塚：2年生になると専門科目が多くなり、授業内容もすごく難しくなります。先生方はすごく丁寧なレジュメを作ってくださったんですが、それだけで内容を理解するのは難しくて。やっぱり、専門の授業は先生の生の声で受けたかったという思いはあります。

山崎：私はリデト（RIDETO）というボランティア団体に属していて、他大学の学生とともに園児やお年寄りの世代間交流や発達障害を抱える子どもたちのサポートをしたりといった活動にかかわってきました。所属する会員も100人以上いて、自由度の高い活動をしてきたのですが、コロナがはやってくるとちょっと活動ができなくなって。後輩に代を引き継げないまま今に至っています。

学長：短期海外留学制度というのがありますが、これも大変でした。皆さんが1年生の3月でしたか、留学先のアメリカに行くことはできましたが、コロナの検査が陰性じゃないと帰れないとかね。発熱者が出たり、飛行機が飛ばなくなっちゃって代わりの飛行機を探すなど、えらく苦労しました。その後は海外に行けなくなって、現在はオンラインという形になっています。

竹屋 元裕学長

大塚 瑞希さん

嶋村 優里さん

手厚いサポート 熊保大の魅力って

丸山：この大学に来てよかったなと思うのは、先生方がわかりやすく親身になって教えてくださるところです。楽しそうに授業をしてくださるので、こちらまで楽しくなって。

山崎：先生と学生の距離がすごく近くて、学生の主体性をすごく大事にしてくれるところですかね。こちらがやりたい活動を全力で支援してくださるのが魅力です。

学長：僕は皆さんが入学した年に学長になったんだけど、ここの先生たちは自身の専門領域についてすごく熱心ですね。確かに学生さんとの距離も近い。スモールグループ(SG)もありますしね。

山内：実習先で理学療法士の方から「熊保大だから優秀なんじゃないの」と言われたことがあります。その時に感じたのは、先輩方が築き上げてきたものが(外からの評価として)確かにあるなということです。優秀な先輩方がすごく頑張っていただいたおかげで、自分たちも受け入れてもらえている。学生たちの積み重ねというのも魅力ではないでしょうか。

嶋村：私は、附属病院がないっていうのが魅力かなと思います。

学長：えっ、ないのがいいわけ?

嶋村：はい。実習って学生の特権だと思うんです。学生のうちにいろんな病院の中に入って実習できるというのはすごくいい経験にもなります。私は1、2年の時、8カ所の病院に保健所も加え計11カ所で実習をしました。そこで感じたのは、同じ大学の先輩方のバックアップのありがたさです。これも含め、本学には安心感をもって社会に出ることができる教育環境があるなと思います。

大塚：私は二点あります。ひとつは、SG制度など先生方のサポートが手厚いこと。自分自身の就職活動の時も、SGの先生は小論文を見たり、さまざまな病院を紹介してくれたりしました。就職・実習支援課の先生方も、小論文添削や面接練習などすごく一人一人に寄り添って助けてくれました。もうひとつの魅力は、設備が整っている点だと思います。医学検査学科では、顕微鏡が学生1人に1台ありますし、検査機器も最新のものがそろえてあります。化学実験の際もビーカーなどの備品が豊富にあるのでありがたいですね。

熊保大に来てよかった

嶋村：この大学に来てよかったなと思うのは、保健師という職業をめざせたことかな。大学で保健師という職業を知ったことが人生の分岐点になったなと思います。

大塚：私は友人がたくさんできたことです。この大学に来なければ出会えなかった人たちだし、同じ仕事をする友達としてこれからもずっと大切にしていきたいと思います。

山内：悩みを相談できる場所が増えたことですか。コロナ禍はありましたが、4年間、無駄だと思ったことはそんなになかったかな。一人暮らしをしていたので、大学が新しい家であったり第二の故郷みたいなものになっています。ほとんどの仲間が同業者になるわけで、今後も、何かあったら相談できる仲間や先生とともに乗り越えていけたらいいですね。

山崎：私は、いろんな活動に参加していく中で多くの経験が積めたところが、一番よかったなと思います。ボランティア活動に関しては、この先の仕事に生かすことを見越してやっていました。同時に、アロマや革細工、陶芸などのさまざまなサークル活動をもまた、自分をワンランク上にというか、人生観を広げるという点ではすごくいい経験になりました。

丸山：私は「この人についていきたい」と思える先生に出会えたことです。SG担任の先生なんですけど、どんなにマニアックな質問にも必ず答えてくださるし、一緒に考え「いつか一緒に研究しようね」と言ってくださるし。先生と一緒に働きたいなと思って、外勤で行かれている病院をめざしているんですけど、それはす

山内 佑介さん

山崎 友哉さん

丸山 愉貴さん

ごく大きいことだと思います。

学長：自分の将来像、いわゆるロールモデルになる人がいるっていうのは、すごくありがたいね。いい人を見つけましたね。

今しかできないことにどんどん挑戦を

嶋村：後輩の皆さんには友達とか先生との出会いを大切にしてほしいです。実習に行くとか、友達と遊ぶとか、学園祭で頑張るとか、今しかないと思って。それがいい思い出になったり、自分の活力になったりすると思うんです。

大塚：勉強や実習を頑張ることはもちろんだけど、友達をつくったり、アルバイトをしたりと、大学生活を楽しんでほしいです。

丸山：やりたいことをどんどんやってほしい。私自身、コロナで時間があったこともあるのですが、スープソムリエ、食育栄養コンサルタント、マナーインストラクターといった資格を取りました。大学で学べない勉強も、どこかで絶対生きてくると思うんです。

山崎：何をやるにしても、「やりたい」「経験を積みたい」という思いをまず持ってほしいなと思います。失敗できるのもこの時期。失敗も自分の糧になるので、どんどん挑戦してほしい。

山内：やっぱり、大学も人とかかわるところですから、人とかかわることを大切にしてほしい。それによって、何かいいことが起きると思うんです。いろんな人と出会って意見を交換し、自分の人生観をぶつけていけば、よりよい学生生活になるんじゃないかなと思います。

学長：今回、皆さんから非常にいい話を聞かせていただきました。皆さん、本当に充実した学生生活を送って、将来設計もきちんとできているなと思いました。この大学がそういったところに貢献できていて、皆さんが医療人を目指して着実に育っているという確信がもてましたから、大変うれしいですね。

News & Topics

熊本県内のスーパーサイエンスハイスクールと協定

熊本県内のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定の県立高校を中心とした８校でつくる熊本サイエンスコンソーシアム（KSC）と本学は９月16日（金）、理数教育の発展と優秀な人材育成のため、高大連携・高大接続に関する協定を結びました。本学50周年記念館で調印式があり、竹屋元裕学長と光永幸生KSC会長（第二高校長）が協定書を交わしました。

同協定によると、高校生の探究活動を本学の教員が研究支援するほか、大学が開講する講義等への高校生の参加が可能になります。本学からは24人の教員が協力を申し出ており、今後、生徒たちの研究内容とすり合わせ、支援を行っていきます。また、高校と大学が連携し、生徒の成長を追跡、評価する高大接続研究などにも取り組む予定です。

調印後、竹屋学長が「今回の連携に基づき、いろいろな交流をしていきたい。（生徒たちには）本学のこともっと知ってほしい」とあいさつ。光永会長は「熊本から世界に羽ばたく科学者や理系人材が育つことを祈っています」と語りました。

協定締結を記念する特別講演もあり、北里柴三郎博士のひ孫で、北里柴三郎記念館長も務める北里英郎氏（北里大学名誉教授、医学博士）が「柴三郎の人となり」と題して講演しました。

KSC加盟の８校は次の通り。

第二、熊本北、宇土、天草、鹿本、熊本西、東稜、大津

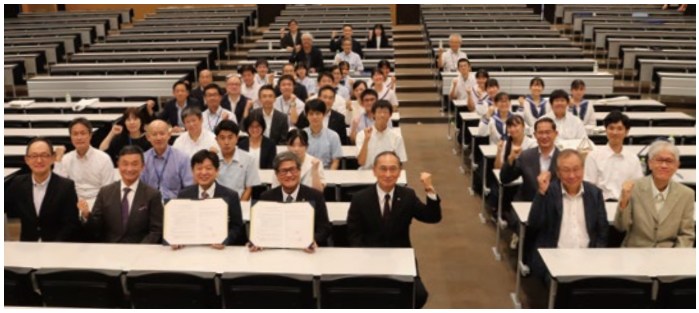
この日は、キックオフイベントとしてSSHの５校が研究内容と進捗状況を発表しました。

鹿本高は「日本の放射線治療の現状」と題して、欧米に比べて比率が低いがん患者への放射線治療の現状を紹介しました。

天草高のグループは特産の柑橘類を使った化粧品を開発中です。宇土高は昼休み後に全校挙げて取り組む午睡に際して、有効な音楽を探求しています。

熊本北高は腎臓のモデルを作り「選択的透過性」について研究中。さらに第二高はニキビへの効果検証をきっかけに興味を抱いた漢方医学について発表しました。

発表後、本学の渡辺雄一学部長が「身近な題材を取り上げた研究テーマばかり。大学の４年間と結びついて、才能を伸ばしてほしい」と講評しました。



発表後、記念撮影でポーズをとる関係者たち

３年ぶりの笑顔「杏祭」距離は取っても心は密に

本学の学園祭である「杏祭」が10月15日（土）に３号館前スペースと２号館、アリーナで開かれました。今回のテーマは「距離は取っても心は密に」。14日の前夜祭、15日の本祭ともに好天に恵まれ大盛況でした。

14日の前夜祭では、吹奏楽部や軽音楽部の演奏やダンスサークルmimicによるダンスが披露されました。また15日の本祭では、アリーナのステージではお笑いライブをはじめ、クラブ対抗のゲームなどが行われ、3号館前スペースでは模擬店、2号館では文化展紹介なども実施されました。フィナーレとして932発の花火も打ち上げられ、杏祭を締めくくりました。

クラブ対抗のゲームやクイズで盛り上がったステージ

アロマクラフトを体験する学生たち

図書館裏の芝生広場では13グループが模擬店を出店

アルティメット体験を出展したクラブのメンバーたち

初の小中学生向け企画 からだの不思議 探検だ！

親子で人間の体の仕組みや病気、医療について学んでもらう「からだのふしぎ探検in熊本保健科学大学」が８月６日（土）、開催されました。コロナ禍の影響で参加対象の範囲を近隣小中学校に絞ったため、参加者は36人にとどまりましたが、各学科の工夫を凝らしたブースが、訪れた親子連れの興味をかき立てていました。

小中学生に正しい医療情報に触れてもらうとともに、夏休みの自由研究に活用してもらおうと、初めて企画しました。同日は各学科が学内３カ所に分かれ、計18のブースを開設しました。医学検査エリアでは、子どもたちが実際に顕微鏡を使って血液細胞を観察していました。また、リハビリテーションエリアでは体に重りを着けて脳卒中患者の体の動きを疑似体験。看護エリアでは妊娠・出産をテーマに助産別科の学生たちが模型を使いながら、胎児の成長する様子などを説明していました。

医学検査エリアで野菜のDNA抽出に挑んだ小学５年の女子児童は「普段見えない細胞が見えて面白かった」と笑顔で答えてくれました。

看護エリアで、妊娠・出産について説明する助産別科の学生たち

医学検査学科のエリアで、顕微鏡を使って血液細胞に見入る参加者

科学の力で高校生ランナー支援

健康・スポーツ教育研究センターの「アスリートスポーツ合宿支援」が、昨年に続き今年も7、8月に計3回、水上村湯山で実施され、高校生ランナーを中心に計約200人が、フィットネス測定やリハビリ、栄養面でのアドバイスなどを受けました。

今年は、同センター教員や大学院生、リハビリテーション学科理学療法学専攻の学生のほか、朝日野総合病院、成尾整形外科の2病院(いずれも熊本市)が医師、看護師、理学療法士を派遣、食品大手・明治専属の管理栄養士が加わり、昨年以上に手厚い支援となりました。

合志市のジム利用者に健康づくりアドバイス

健康・スポーツ教育研究センターは8月20日(土)、合志市の市総合健康センター「ユーパレス弁天」で、施設内のフィットネスジムを訪れる人に体力や骨密度などを測定し、健康づくりのアドバイスを行いました。

「BENTENフィットネスチェック」と銘打ったこの取り組みは、本学と合志市が包括連携協定を締結して10年となるのを機に、初めて企画されたものです。事前告知の効果もあり、11～15時までの4時間の間に18人が訪れました。

体組成、骨密度検査や、握力、柔軟性など6項目の体力測定を実施しました。

オープンキャンパス　熊保大の魅力全開

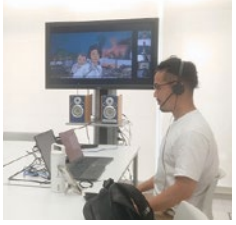
オープンキャンパスが7月17日(日)、8月21日(日)、9月4日(日)に2部構成(午前・午後)で開催されました。学科ごとのオリエンテーションと学科紹介後、参加者はそれぞれ工夫を凝らした模擬実習に移りました。このほか、共通教育ブースや施設見学ツアー、ピア・サポーターによる「先輩と話してみよう」などが実施されました。

Global Healthcare Leadership Program（GHLP）

プレゼン、K-POP …アジア各国の学生と交流

韓国・大邱保健大学主催のGlobal Healthcare Leadership Program(GHLP)が8月19日(金)にオンラインで開催され、アジア各国から約30人、本学からは3人の学生が参加しました。

午前中は韓国の観光地のビデオ鑑賞やヘルスケアについての特別講義があり、午後には環境問題をテーマとしたプレゼン大会、K-POPダンスの講義などが行われました。プレゼン大会では事前にSNS等で打ち合わせを行い作成したパワーポイントを用いて、各グループの代表者が発表を行いました。プログラムの最後には授賞式が行われ、本学の学生1人が所属していたグループが2位を獲得することができました。



小中学生にフィットネスチェック

健康・スポーツ教育研究センターは9月10日(土)、本学アリーナなどで、優れた運動能力を持つ小中学生を対象とした「ハイパフォーマンス・フィットネスチェック」を実施しました。

この取り組みは、熊本県教育委員会と熊本県スポーツ協会が展開している「くまもとワールドアスリート事業・タレント発掘・育成プログラム」の一環です。昨年度、小学校(4～6年生)で実施したスポーツテスト結果の上位者から選抜された22人のタレント育成指定選手(小学5年生～中学1年生)が参加しました。

ポストコロナの学生支援策探る

第50回九州地区学生指導研究集会が9月8日(木)、オンラインで開催されました。毎年1回、九州地区の大学等の学生支援担当教職員を対象に開かれており、本学が当番校となった今回は約130人が参加しました。「ウィズコロナ・ポストコロナ時代の学生支援」をテーマに、午前は講演会、午後は分科会が行われ、参加者からは「他校と様々な情報を共有できて大変有意義な会となった」との感想が聞かれました。集会の進行は渡辺雄一学部長が務め、竹屋元裕学長が挨拶に立つなど、多くの教職員の支援を得て、無事に終了することができました。

日本人工臓器学会大会ポスターセッション 荒尾さん(大学院臨床検査領域1年)に優秀賞

本学大学院臨床検査領域1年の荒尾ほほみさん(上妻研究室)が11月3日(木)～5日(土)に愛媛県で開催された第60回日本人工臓器学会大会の萌芽研究ポスターセッションで優秀賞を受賞しました。

ポスターのタイトルは「体外式膜型人工肺(ECMO)内に生ずる血栓の原因を探る～模擬体外循環時に増加する脱シアル化血小板の機能解析～」。多くの苦労を乗り越えての受賞でした。

専門の枠超え 症例検討、介入計画 4年次生計30班 「チーム医療演習」発表会

学部4年次生の必修科目(保健科学基幹科目)「チーム医療演習」の集大成となる発表会が11月10日(木)、1300L講義室と50周年記念館の2会場で実施され、総勢346人が30のグループに分かれ、活動の成果を発表しました。

チーム医療演習は、専門分野の異なる学生同士がグループ(11～12人)を組み、症例検討を行い、チーム医療を行う上で必要な相互理解を学びます。10月13日(木)から5週に渡って取り組んできました。

実習体験レポート

1年次から4年次まで、実践レベルの技術や知識を習得するために、段階をふんだ実習があります。学科専攻によって内容は異なり、実際に現場での実習を体験することで、自分の将来を具体的にイメージすることができます。今回は6人の学生の実習体験をご紹介します。実習を通して学んだことや感じたこと、実習中の気分転換の方法から皆さんへのアドバイスまで幅広くお答えしていただきました。

①実習を通して学んだこと　②実習中の気分転換　③後輩へのアドバイス

自分から行動することが学びに

医学検査学科 3年
片平 帆風 さん

①臨地実習では、講義や教科書で学んだことが臨床の場でどのように生かされているか、特に生理検査では患者接遇などを学びました。その中で、検査技師の仕事はただ指示された検査をすることだけではなく、正しい検査結果を速やかに報告することやそのための精度管理、検査結果によっては他に必要な情報や追加検査の提案を伝えることも大事な仕事だと学びました。また、患者さんを目の前にして責任をもって検査をすることの大切さも感じました。
②平日はがんばる代わりに休日はアラームをかけずに昼過ぎまで寝ることでリフレッシュしていました。
③最初は緊張や不安も多いと思いますが、検査技師の方は優しく丁寧に指導してくださるので、わからないことは積極的に質問すること、何が必要かを考えて自分から行動することが更なる学びにつながります。また、実習中は慣れない環境で疲れやすいのでしっかり食べて寝て身体も大事にしながらがんばってください 。

先を見据えた対応が重要

看護学科 3年
古賀 陽佳梨 さん

① 今回の実習を通し、心身ともにケアが必要な患者さんに、看護師自身が幅広い知識・価値観をもち、疾患を患っている心理状態やその人の人間性を理解することが、一人ひとり異なる患者さんに配慮した看護を実施することができると学びました。また、患者さんは退院し、自宅や施設などの病院外での生活を行うことを視野に入れ、先を見据えた説明・教育、家族への支援を行うことが、患者さんとその家族の今後の生活を支えるために重要であると学びました。
② 実習中は写真を撮ったり、ペットと遊んだりするなど趣味を作ることで、実習と休日の頭を切り替えていました。
③ 実りある実習にするために、事前学習や患者さんに関連する疾患、薬、ケアは特に丁寧に勉強し、いつでも見直せるようにメモ帳にメモしておくことが大切です。知識があることは、看護を行う際の心の余裕に直結します。コロナ禍で上手く経験が積めず、緊張すると思いますが、遠慮なく先生や先輩を頼ってください。応援しています。

週末は、自分の時間を過ごし、リフレッシュ

リハビリテーション学科
理学療法学専攻 4年
中田 万唯 さん

①臨床実習では、実際に一人の患者様を担当させていただき、治療プログラム立案から介入までを任せていただきました。その中でも、限られた時間の中で必要な検査や動作分析などを正確に行うことに苦戦しました。患者様個々にあったリハビリを提供するためには、これまで学習してきた基礎知識や検査・評価はもちろん、効率よく実施することの重要性を学びました。また、理学療法士の方が患者様と共にリハビリに取り組まれる姿に感銘を受けました。これらの経験から実習を通して、自分の理想とする理学療法士像が明確になりました。
②毎週末には、録画していた好きなドラマを観たり、友人と連絡を取り合ったりして自分の時間を過ごし、リフレッシュしていました。
③実習で学んだ知識や技術は印象に残りやすく、次の実習先や国家試験勉強に必ず生かされます。実習中は、たくさんメモを取り、わからないことは積極的に質問をして、実習中に学んだ知識や技術を自分の強みにしてください。辛いときは周りの人に相談するなど、自分の時間も大切に、充実した実習生活にしてください。応援しています！

大切なことは積極性

リハビリテーション学科
生活機能療法学専攻 4年
大塚 胡桃 さん

①臨床実習では同じ疾患でも一人ひとり症状や目標が異なり、個人に合わせたリハビリを提供することの重要性を学びました。患者さんの声に耳を傾け、その時の悩みやリハビリに対して何を求めているのか聞き逃さないようにすることで、退院後もその人らしい生活を過ごす支援ができることが分かりました。コロナ禍で実習期間が限られた中、多くの症例を経験するために指導者以外の先生にもすすんで質問したことで学校では学べない知識や技術を身につけることができました。
②レポートを休みの前日に仕上げて、自分の趣味の時間を取ることで気分転換をしていました。
③実習で大切なことは積極性です。自分から患者さんとコミュニケーションをとることで、良好な関係を築くことができます。また、様々な評価法や検査について実際の場面を見学・実施することも重要です。実習はとても大変ですが、実習でしか学べないことがたくさんあり、振り返るととても充実した時間だったと思います。頑張ってください！

実習で学んだことは役に立つ

リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻 4年
岡田 莉彩 さん

① 臨床実習では、指導者の下、実際に一人で患者様を受け持たせていただき、訓練計画立案・介入までを任せていただきました。患者様の会話や食事場面など普段の様子を細かく観察し分析する中で、アプローチ方法を見極めなければならないところが難しく感じました。しかし、自分で考えた訓練計画を患者様に提供することで、より臨床に近い形で実習を進めることができ、臨床で働くことを具体的にイメージすることができました。患者様への向き合い方や言語聴覚士としてのあり方について学ぶことができました。
② 休日は好きな漫画を読んだり、実習が終わった時に出かけたい場所を調べたりなど、自分が好きなことをひたすらしていました。
③ 最初は緊張すると思いますが、現場の方々はみなさん優しいです。指導者の方に自ら積極的に質問を行うことで学びがより深まると思います。実習で学んだことは、臨床現場で働く際や、国家試験の勉強の時に必ず役に立ちます。成長できる機会ですので、充実した実習生活が送れるように頑張ってください！応援しています。

母子の命を預かる責任感を実感

助産別科
井上 結里加 さん

①助産師は分娩進行状況や母子の状態を判断しながら行動することが求められます。自分でできることが広がる一方で、自身の行動が母子の安全に直結することや母子２人の命を預かる責任感を実感しました。正しい知識を持つことが必要でありアセスメントや機序などを丁寧に理解することが大切だと学びました。また、母親と関わりを深める中で不安や悩みなどを打ち明けて下さるようになり、信頼関係を構築することの重要性を学びました。
②同じグループのメンバーと話したり、友人と電話をしたりして実習を乗り越えました。
③看護学生と比較して自分で考えて行動することが多いので、疑問に思ったことは調べたり質問したりして解決すること、先生や指導助産師さんとの報告や連絡、相談することが大切だと思います。大変なことも多いですが、その分やりがいや達成感は大きいです。初めからうまくできる人はいないので自信を持って頑張ってください。

研究ノート

輸血用血小板製剤の使用期限を延ばすための研究をしています。

保健科学研究科
保健科学専攻
臨床検査領域2年
平本 淳也 さん

皆さんの中には献血をされる方もいらっしゃると思います。献血後の血液からは赤血球、血漿および血小板製剤が作られます。その中でも血小板はわずか4日間しか使えず、その後廃棄されてしまいます。私はこの4日の使用期限を延ばすための研究をしています。はじめに血小板を4℃下で保存しましたが、温度を下げると変形してしまい、輸血してもすぐに体から消去されてしまうことがわかりました。そこで、冷やさずに血小板表面にあるGPIb/IXと呼ばれる糖蛋白質を切断する酵素(ADAM17)を抑制すれば、保管期間が延長できると考えました。ある試薬を使って、ADAM17の活性を抑制すると、GPIb/IXは長期間血小板上にとどまり、血小板が引き起こす凝集能も維持できていました。また、これまでの実験から使用期限延長の可能性だけでなく、血小板の新しい機能も見えてきました。今後はこの保存剤の有効性と血小板の新たな機能解明の両面から研究を進め、臨床応用実現の糸口を見出したいと思います。

活躍する先輩たちのリアルな声が聞ける！

KHSU

OB・OG 就職活動ルポ

2022年3月卒業（医学検査学科）

西澤　亜佳音さん

臨床検査技師
KMバイオロジクス株式会社

早めの行動で万全な準備を

就職活動を進めるにあたり重要なことは、早めの行動と、時には周りの人を頼ることだと思います。就職活動において予定通りに準備が進まない、ということは付き物です。早めに取り掛かり万全な準備をすることで、自分自身の自信に繋がり良い結果を導くことができると思います。また、就職活動では初めてのことばかりで戸惑うことも沢山あります。そんな時は、先生や先輩、友人に相談してみてください。良いアドバイスをいただけると思います。皆さんの就職活動がより良いものになるよう、応援しています！

2022年３月卒業（看護学科）

西村　真子さん

看護師
済生会熊本病院

自分に合う領域を見つける

私は現在、済生会熊本病院の脳神経外科で勤務しております。

私が在学中就職を意識して行っていたことは、実習で様々な病院を比較し、自分の看護観、自分に合っている領域を見つけることです。1.2年生のうちは難しいかもしれませんので、3年生の領域別実習で少しずつ意識しながら実習を行うと就職活動のいいスタートがきれると思います。また、「就職活動は早めに開始」し、自ら積極的に情報収集を行い、行動に移していくことが第一志望に合格するための一番の近道です。周りの友人と支え合いながら頑張って下さい。

2022年３月卒業（リハ学科理学療法学専攻）

北岡　大輔さん

理学療法士
熊本託麻台リハビリテーション病院

就職･実習支援課をフル活用！

私の就職活動は、本学の就職・実習支援課をフルに活用して乗り越えられました。早い段階で就職・実習支援課の皆様に名前と顔を覚えてもらう程、小論文やES、面接をお願いしに行きました。その時意識していたことは、100%まで仕上げて提出するのでなく70%でも80%の仕上がりでも就職・実習支援課に添削・面接を依頼することです。時に恥ずかしさもあると思いますが、就職活動は、人生の分岐点です。あとから後悔しないように自分と向き合って一生懸命取り組んでください。

熊本託麻台リハビリテーション病院で皆さんと働くことを楽しみに待っています!!

2022年３月卒業（リハ学科生活機能療法学専攻）

森脇　辰弘さん

作業療法士
熊本機能病院

未来に向け、前に進め

在学中主に意識したことは、自分が得意なことは何か、苦手なことは何か、そして自分はどんなことがしたいのかということをしっかりと考えることです。自分の考えをしっかり理解することで、就職・実習支援課で情報を集める際や病院見学へ行く際に何を重視して就職先を選定するのかを考えやすくすることができると思いました。

一人で悩むのではなく、自分をよく見てくださっているSGの先生や実習先のバイザーを頼り相談し、最後は自分で決めることが何よりも頑張れる力となります。自分の未来に向け前に進まれてください。

2022年3月卒業（リハ学科言語聴覚学専攻）

松﨑　優子さん

言語聴覚士
杉村病院

気持ちと言葉に温度差なく

私は、医療法人杉村会杉村病院で言語聴覚士として働いています。急性期から回復期まで長期的に患者様へ携わり、学び多き日々を過ごしています。

私が就職活動で意識したことは、どんな病院で何をしたいかということです。対策では、就職・実習支援課の先生方にアドバイスを頂き、履歴書や試験で気持ちと言葉に温度差なく伝えるよう心がけました。

また、私はアルバイトを卒業まで続けていました。両立することは大変でしたが、どんな条件下でも続ける忍耐力や、実行力、対応力は、就職活動をする上で役立ちました。

2022年３月卒業（助産別科）

佐々木　梨乃さん

助産師
福田病院

自分のなりたい助産師像を

私は様々な就職セミナーやインターンシップに参加し、自分のなりたい助産師像と、病院の方針を照らし合わせ、助産師像に近づけるかということを基準に病院選びをしました。病院を決めてからは、就職・実習支援課で履歴書の志望動機の添削や面接練習をして頂き試験対策をしました。面接練習は、就職・実習支援課に病院ごとに過去の就職試験の面接内容がまとめてあるので、それを参考に質問に対する自分の回答をまとめてから行うと良いと思います。就職試験は緊張すると思いますが自信をもって臨んできてください。応援しています！

研究室紹介
Laboratory Report

《左上》藤本 泰裕さん(修士1年)《左下から》松原准教授、次山 航平さん、楠田 賢斗さん、亀田 航太さん(以上修士1年)、中野　翼さん(修士2年)、本田講師

研究テーマ

- スポーツおよびリハビリテーション領域における バイオメカニクスデータの活用
- バイオメカニクスデータに基づく傷害リスク予測に関する研究
- 簡易型動作解析システムによる身体運動計測の信頼性の検証

保健科学研究科 保健科学専攻

松原 誠仁准教授

私たちは身体運動のバイオメカニクス研究を専門とする研究グループです。バイオメカニクス研究とは、身体運動の特徴とその原因となる力を分析する分野であり、スポーツ傷害の発生メカニズムの解明などに寄与してきました。近年、簡便かつ安価な測定機器が普及しており、身体運動計測が理学療法士やスポーツ指導者にとって身近なものになりました。

本田 啓太講師

しかし、これらの計測値を解釈し、対象者にフィードバックするためには、正しく計測・分析する技術が必要です。実験室で行われてきたリハビリテーションおよびスポーツ領域のバイオメカニクス研究を臨床やスポーツ現場で実装する研究活動を通して、データ計測・分析技術に優れた医療従事者の育成に励んでいます。

呼気ガス分析装置と慣性計測装置を用いて
ランニング動作を分析する院生たち

保健科学研究科
保健科学専攻
リハビリテーション領域2年
中野　翼 さん

どんな研究をされていますか。

長距離陸上選手における酸素ルームを用いたリカバリーに関する研究を行う予定です。スポーツ選手が高いパフォーマンスを発揮し続けるためには、効率的なトレーニングだけでなく、適切なリカバリーを行うことが重要視されています。酸素ルームは、近年、注目されているリカバリー手段の一つであり、疲労回復やパフォーマンス改善効果が期待されています。実際に、ランナーを酸素ルームに滞在させ、その後のランニングフォームや酸素摂取量などのパフォーマンスに与える影響を研究し、アスリートに貢献していきたいと考えています。

所属している研究室はどんなところですか。

卒後すぐに大学院に進学した方や、私と同様に仕事をしながら大学院に通っている方、県外から参加されている方など様々な院生がいます。研究室の教員と院生で週に1度ミーティングを行っています。対面+オンラインを用いて、全員が参加しやすい環境、ディスカッションをしやすい雰囲気で活気ある研究室です。それぞれ違った視点での意見を発言し合い、全員で研究をより良いものにしていこうと取り組んでおり、最高の研究室です!

Column コラム　実習支援システムの導入

リハビリテーション学科長
田中　聡

リハビリテーション学科では、今年度から実習支援システムの導入を始めています。

本学では、新型コロナ感染拡大防止のため授業を遠隔で行う場合に「manaba」という授業支援システムを用いて実施しています。「manaba」は、オンライン上で講義内容を配信することができ、また、小テストやアンケートを行うといった機能が備わっています。

今回、本学科で導入を進めている実習支援システムは、これの実習版と考えて頂けると想像がつきやすいかと思います。これまで、デイリーノートで実習指導者様と本学の実習生がやり取りをしながら指導を受けてきましたが、これをオンライン上で行うことができます。このシステムには本学教員も参加できるので、実習指導者様と本学教員が綿密に連携を取りながら学生指導にあたることができるようになります。実習中の学生は、なにかと不安があると思いますが、本学教員もこの実習支援システムを用いて実習の進捗状況をリアルタイムに把握できますので、的確なアドバイスを送ることが可能となります。

また、SNSを用いたコミュニケーションに長けた今時の学生たちにとっては、電話などよりも手軽にこのシステムを用いてコミュニケーションが取れるようです。正直、私のようなオールド世代にとってはなかなか敷居の高いものであり、私と同じ様なお気持ちの実習指導者様も多くいらっしゃると思いますが、何卒、導入にご協力を宜しくお願い致します。

基本理念

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、以下の基本理念を掲げる。

1. 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う
2. 人間と社会に深い洞察力を持つ人材の育成
3. 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成
4. 豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材の育成

教育目標

1. 生命の尊厳と社会への洞察力を有し、自立できる人材を育てる
2. 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
3. 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
4. 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術を持つ人材を育てる

将来ビジョン　保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる

Vision 1　社会の変化に対応し、リーダーシップを発揮できる医療技術者の養成
- ビジョン 1-1　教育改革の推進と学生ファーストの修学支援
- ビジョン 1-2　独創的な研究の推進と大学院の充実

Vision 2　地域に根ざし、地域と共に歩み、社会の幸福実現に貢献
- ビジョン 2-1　教育・研究組織の充実
- ビジョン 2-2　魅力的な教育・研究環境の充実

Vision 3　10年後も20年後も選ばれ続けるためのブランド力の強化
- ビジョン 3-1　学生・教職員の国際力の向上と海外の大学等との連携強化
- ビジョン 3-2　教員と職員が協働する効率的・合理的な職場環境の構築

「熊保大夢基金」お礼とお願い

本学園では、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実を目的として、「学校法人銀杏学園 熊保大夢基金」への寄付をお願いしております。令和4年度前期におきましても22件166万円の御寄付を頂きました。この場を借りて心から御礼申し上げます。

感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。

ご芳名(令和4年度前期分、掲載御許可を頂いた方のみ、五十音順)
(医)愛育会福田病院様、(福)恩賜財団済生会みすみ病院様、KMﾊﾞｲｵﾛｼﾞｸｽ(株)様、﨑元達郎様、重富直純様、(医)寿量会熊本機能病院様、白川秀憲様、高木清市様、高野眞様、永田豪史様、(株)花園ハイツ花園様、福丸秀男様、松﨑勝利様、(医)緑泉会米盛病院様

頂いた御寄付は、学内実習設備の拡充や大学構内のWi-Fi環境整備等へ活用させて頂きました。引き続き基金の趣旨に御賛同頂きご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

詳細につきましては「寄付金 募集要項」または公式WEBサイトhttps://www.kumamoto-hsu.ac.jpを御覧頂くか、本学経理課までお問い合わせ下さい。

編集後記

ぎんきょう奇数号が発刊されるのは、年が明けてすぐが通例です。ここ数年、編集後記もCOVID-19の話題を取り上げることが多く、この話題から早く離れたい思いでいっぱいです。来年こそは、流行が下火になり、別の話題での編集後記を書きたいなと思っています。

Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE since 2004
III UNIVERSITY
2020.4-2027.3

熊本保健科学大学では、公益財団法人日本高等教育評価機構において令和2年度大学機関別認証評価を受審し、令和3年3月16日付けで同機構が定める大学評価基準に適合していることが認定されました。

本学では今回の認証評価の結果を踏まえ、今後も更なる向上に努めて参ります。

ぎんきょう
GINKYO GAKUEN TSUSHIN GINKYO 銀杏学園通信"ぎんきょう" No.47 発行日／2023年1月31日
発行 学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学 〒861-5598 熊本市北区和泉町325番地 TEL096-275-2111 FAX096-245-3126 https://www.kumamoto-hsu.ac.jp